

令和7年度

九条中ブロック小中一貫教育の全体計画

小中一貫教育の大目標

21世紀をたくましく生き抜く力（21世紀型能力）の育成

くめざす子ども像>

- 主体的に学びに向かう子ども
- 社会の一員として自己の責任を果たす子ども
- 未来に向けて夢や志を持ち、実現へ向けて実践する子ども

☆大目標の中の「21世紀型能力」については共通理解していくことが必要

- 小中一貫教育推進のポイント…「小中の課題を共有する」「授業・教育活動を協働で創り出す」



【令和7年度】九条ブロック小中合同研修会テーマ（案）

九条中ブロックのベクトルを揃え、校種を超えた一貫性のある教育活動の更なる推進につなげる。

- 「学びの活用と深化」を通して「主体性」の育成を図る



○どうやってベクトルを揃えるの？ 一貫性のある教育活動にするの？そのためには

キャリア教育の観点で自校・小小・小中の教育活動をつなぎ、目指す児童生徒の姿に向けて

九条中ブロックのベクトルを揃え、校種を超えた一貫性のある教育活動のあり方についての研究。

[研究仮説]

キャリア教育が掲げる基礎的・汎用的能力等を掲げ、教科・領域、学校、校種間を資質・能力でつなぐことで、さらなる一貫性のある教育活動が実践され、児童生徒の「主体性」の育成と「学びの活用と深化」を図ることができる。

- 小中合同研修会…小中連携・小中一貫教育、キャリア教育の観点などについての知見を得る場
- 小中合同授業研究会…研究の重点・共通実践事項をもとに、どう学び、どう教えるのかについて研究し、授業（+日常の授業実践の中で）を協働で作り出す場
- 三校部会…小学校で何を学んできたのか、中学校で何を学ぶのかをもとにキャリア教育の観点で小小・小中の教育活動をつなぐ場

○「『キャリア教育の視点』で各校・小小・小中の教育活動をつなぐ」とは

- 教育活動の改善には、実態（児童生徒の現状）把握と、成果を検証できる目標設定により検証改善サイクル（PDCAサイクル）が機能することが大切。
→この目標設定で「めざす子ども像」をイメージするのに、キャリア教育が掲げる基礎的・汎用的能力（「キャリアプランニング能力（見通す力）」「自己理解・自己管理能力（自律する力）」「課題対応能力（乗り越える力）」「人間関係形成・社会形成能力（つながる力）」）の視点《社会人基礎力も含めて》を用いることがベクトルを揃えるうえで有効だと考える。
- 目標を確認したら、現状と目標の差である課題（重点目標）を解決するために方策・計画を検討・立案する。この過程に小中の教職員が関わり、参画・共有することでし、「九条中ブロックのベクトルを揃え、校種を超えた一貫性のある教育活動の更なる推進につなげる」ことにつながると考える。

•授業では

- 授業のねらいは「教科の目標」です。ねらいを達成するための授業の中に、キャリア教育が掲げる基礎的・汎用的能力等のキャリア教育の価値が隠れていたら、それを見いだし、意識して指導すること。
- そのことにより、カリキュラム・マネジメントでいう「教科・領域間を資質・能力でつなぐ」ことになると考える。

•「キャリア教育でつないだ小中9年間で目指す児童生徒の姿」

令和7年度 学校教育目標

- ◆九条中学校 「豊かな心と豊かな知性をそなえ、たくましく生きる生徒の育成」
- ◆九条弘道小学校 「夢に向かって自ら学び たくましく輝く子の育成」
～ つなぐ つながる 発信する ～
- ◆九条塔南小学校 「心豊かにたくましく 夢や希望に向かう子どもの育成」
～ つながろう つなげよう 九条塔南の子 ～



九条中ブロック3校共通で「育成を目指す資質・能力」
「実行力」「課題発見力」「柔軟性」

キャリア教育の視点で小中9年間の学びをつなぎ、「自己指導能力」を高めた児童生徒の姿

- ① ◇小さな成果を喜びに感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。
- ② ◇失敗を怖れずに、とにかくやってみようとする果敢さをもって、取り組むことができる。
- ③ ◇強い意志を持ち、困難な状況から逃げずに取り組み続けることができる。
- ④ ★成果のイメージを明確にして、その実現のために現段階でなすべきことを的確に把握できる。
- ⑤ ★現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。
- ⑥ ★課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている。
- ⑦ ■自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感をもって受け入れることができる。
- ⑧ ■相手がなぜそのように考えるかを、相手の気持ちになって理解することができる。
- ⑨ ■立場が異なる相手の背景や事情を理解することができる。

(◇「実行力」★「課題発見力」、■「柔軟性」より)